

ワクチン 注意点は

子宮頸がん

失神の恐れ 30分休んで

厚労省 中高生に呼び掛け

厚生労働省は、子宮頸がん予防ワクチンを接種した女子中高生の失神やそれに伴うけがが報告されているとして、接種後は保護者などが付き添い、30分程度は座って休

むよう呼び掛けている。子宮頸がんの予防接種は筋肉注射で痛みを感じやすいとされ、失神の原因も、薬剤でなく注射行為の恐怖に関連すると考えられている。原則、中

学1年から高校1年の女子には公費助成があり、接種が増える夏休みを前に、医療関係者向けの「医薬品・医療機器等安全性情報」で注意喚起した。子宮頸がん予防ワクチンは、2009年12月発売の「サーバリックス」と、昨年8月発売の「ガーダシル」という2種類の製品がある。

安全性情報によると、今年3月末までに接種後の意識消失がサーバリックスで476例、ガーダシルで91例報告された。発生率は接種10万回当たりで8〜17例。倒れた際に頭などを打つ二次被害もそれぞれ38例と13例。鼻の骨や歯が折れたり、軽い脳挫傷と分かったりした例があったという。ワクチンは同じ製品を3回受けなければならぬが、2製品で3回とした事例も報告された。効果があるか分からないため、3回とも同じ製品を打つよう徹底を求めた。

安心・安全

結びプロジェクト